■ 主要指標の推移 ■ 2007～ 2018年

2007 年 6 月にNPOを設立した当初は明確な活動拠点がありませんでしたが、2009 ～ 2013 年に国の事業を導入してマネジメントセンターを立ち上げ、活動基盤を形成することができました。2014 ～ 2017 年は、賛助会員のご支援、地域シンクタンクとしての特性を発揮した受託調査の受注増加、経営体制の見直しにより、自立的な経営へと転換。2018 年に入ると、夕張と赤平での運営受託により、事業費総額が拡大しました。

期		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
会計年		2007※	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
特　徴		NPO立ち上げ		マネジメントセンターの開設と活動拡大					自立体制確立と展開準備				活動拡大
損益構造 （単位：千円）													
収益	会　費	634	532	618	937	684	860	1,003	804	1,641	2,157	2,171	1,953
	寄付金	51	19	31	113	65	250	222	197	330	253	100	1,206
	事業収益	380	1,060	1,229	5,034	5,320	2,821	8,653	10,626	8,119	11,868	13,862	47,968
	補助金	0	500	9,360	19,411	18,890	19,845	13,815	5,240	5,500	3,000	2,400	1,600
	助成金	0	500	100	0	950	1,814	1,000	0	0	0	0	0
	その他	118	0	0	0	0	0	0	1	89	0	128	0
	計	1,183	2,611	11,338	25,495	25,909	25,590	24,693	16,868	15,679	17,278	18,661	52,727
事業費		693	2,092	9,704	20,423	23,182	20,869	17,283	16,627	15,679	16,675	19,033	48,946
貸借残高 （単位：千円）													
現預金残高		359	625	564	2,226	1,193	1,873	4,905	1,807	3,175	1,994	2,407	9,482
正味財産		359	625	525	2,173	1,411	1,614	5,098	3,000	3,358	3,393	2,913	6,596
会員 （単位：人・法人）期末在籍数													
運営会員		32	37	39	37	39	40	41	42	39	48	48	52
一般会員		105	115	142	143	148	191	211	217	229	256	253	263
賛助会員		0	2	2	2	2	2	2	3	16	18	21	22

※2007 年は 7 ヶ月　補助金＝特定の事業を対象にしたもの、助成金＝事業を特定せず活動全般に対するもの

石炭博物館 営業開始は4月27日㊏

冬季閉館していた夕張市石炭博物館は、4月27日㊏10 時から今シーズンの営業を開始します。リニューアルしたばかりで指定管理者として初体験であった昨年度は、ともかく事故なく運営することで精一杯でしたが、今シーズンからは少しずつですが、展示や行事に創意工夫を入れ込みながら、内容の充実を図って参りたいと思っています。

今シーズンから、会員の皆さんには、会員種別に応じて博物館の優待券を差し上げることにしました。昨年も多くの会員の皆さんにご来館頂きましたが、今年は優待券を握りしめ、お誘い合わせの上で二度三度のご来訪をお待ちしています。

▷開館時間：9月30日㊊まで 10:00 ～ 17:00（最終入場 16:30）／10 月 2 日㊌～ 11 月4日㊊10:00 ～ 16:00（最終入場 15:30）▷休館日：火曜日（8/13 と 10/22 は火曜日も開館）、冬季 11 月5日㊋～▷問い合わせ：☎ 0123-52-5500。

今年の行事予定

いつも行事予定がなかなか決まらずに、皆さんにはご迷惑をおかけしています。今年こそ、早めにスケジュールを確定させたいと思っていますが、5月末頃に判明する《炭鉄港》の日本遺産への採択の成否によって、展開が大きく変わることが予想されますので、もうしばらくお待ち下さい。

現在のところ、確定（ほぼ確定）となっている行事は次の通りです。

■マネジメントセンター石蔵特別展
「齊藤靖則さんの模型展」
4月 27日㊏～ 5月 25日㊏

■「ゴールデンカムイ」スタンプラリー拠点
マネジメントセンター、石炭博物館
4月 27日㊏～ 2020年 3月 31日㊋

■奔別立坑敷地公開
5月 3日㊎～ 5月 6日㊊11:00～ 15:00

■炭鉱の灯り(予定)
7月 27日㊏、8月 3日㊏、8月 10日㊏

■ぷらぷらまち歩き
今年も秋に実施予定

会費納入にご協力下さい

NPO の活動は、会員の皆さまの会費によって支えられています。会報とともに請求書が入っていた方は、お早めにご送金下さいますよう、お願い申し上げます。

人事異動

2019/02/23 ▷通常総会で理事に選任：吉岡宏高・大橋二朗・植村真美・酒井裕司・佐藤裕子・平野義文・石川成昭（再任）、仲嶋憲一（新任：室蘭観光協会事務局長）▷同監事に選任：加藤愉朗・熊谷隆文（再任）

2019/02/23 ▷第 2 回理事会で理事長に選任：吉岡宏高（再任：夕張市石炭博物館館長兼任）▷同副理事長：大橋二朗（再任：先任副理事長・赤平ガイダンス施設担当）・植村真美（再任）▷同常務理事:酒井裕司（再任：夕張市石炭博物館企画部長兼任）

2019/04/01 ▷雇用更新／大倉加奈（事務局員＝赤平、2020/03/31 まで）、横山真由美（事務局員＝岩見沢、2020/03/31 まで）、村田幸夫（臨時職員＝赤平、2020/03/31 まで）▷新採用／吉田直哉・島津奈都紀（臨時職員＝赤平、2020/03/31 まで）

2019/04/15 ▷新採用／大瀧謙（臨時職員＝夕張、2019/11/15 まで）

炭鉱（ヤマ）の記憶 情報

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団
理事長 吉岡宏高
〒068-0021 岩見沢市1条西4丁目3
そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
TEL 0126-24-9901　FAX 0126-24-9902
http://www.soratan.com/

No. 018
2019/04/15

今夏で開設10周年

そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターは、2009 年 8 月 17 日にオープンしてから、今年の夏で 10 周年を迎えます。

これまでの来場者数は累計 36,768 人（2019 年 3 月末現在）。一日あたり来館者数は、2009 年度は7人弱だったものが近年は 18 人と 2.5 倍にまでなり、ここ数年は年間 5,000 人程度の安定的な来場者があります。

センターは、北海道の計画である**産炭地域活性化戦略**に位置づけられた七つの重要拠点の要として開設されたことから、空知総合振興局と密接な連携を取りながら、《炭鉱の記憶》の中核的施設として運営されてきました。

そのため、開設当初は国の緊急雇用事業を導入して立ち上げ支援を頂き、2014 年度からは独自財源での自主運営を行ってきました。2015 年度からは管内 14 市町（現在 15 市町に拡大）が賛助会員として当法人に加盟し事務所賃借料相当額のご支援を頂いていることも、10 年継続の大きな力となっています。

外に対しては空知産炭地域での活動を伝える**アンプ**として、内に対しては地域外からの活力・人脈・情報を空知産炭地域に伝える**ポンプ**としての活動を一貫して行い、近年では地域シンクタンクとしての側面も充実させてきました。

2018 年度には、夕張市石炭博物館がリニューアルオープンし、赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設が新設され、双方の施設運営にNPOが積極的に関わることになりました。また、空知と小樽・室蘭の歴史的繋がりを表現した**《炭鉄港》**は、十年来続けてきた成果がようやく具体化してきました。

そのためセンターは、従来の**内外を結ぶレンズのような「点」**としての役割が一層高まるとともに、夕張－岩見沢－赤平を結び**空知産炭地域全体をカバーする「面」の要**としての働きを一層充実させる時が来ました。

このような経緯と未来展望を踏まえて、センター誕生から 10 年を祝う行事（石蔵での特別展・記念行事の開催）を、今秋をメドに計画しているところです。

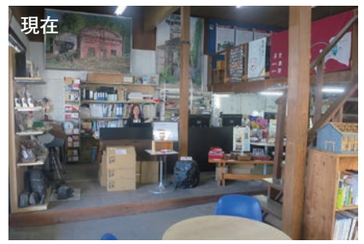
まさにNPO活動の転換期にあたって、センター開設 10 周年を迎え、新たな複合的役割の発揮にチャレンジしたいと考えています。このような展望を開くことができるのも、ひとえに会員の皆さまの日頃のご支援の賜と心からお礼申し上げるとともに、今後一層のご支援をお願いいたします。

2009年

現在

開業前

2009年


現在

2月23日

第 12 期定期総会開催 – 2018年活動報告・2019年の活動計画

設立から 11 周年を迎えた 2018 年は、空知産炭地域と小樽市・室蘭市を結ぶ《炭鉄港》が日本遺産登録に向けて大きく前進したほか、夕張市石炭博物館（以下《夕張CM》）の指定管理、赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設（以下《赤平GC》）の業務受託によって、そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター（以下《岩見沢MC》）を核とする面的な展開体制が具体化しました。

［活動計画に対して：○ =達成 △ =途上 ×=未了］

■ 報告 ■ 2018年

■出版事業

△ブックレット・解説資料の刊行：ブックレットについては、《夕張CM》《赤平GC》関係の業務が輻輳し具体的な成果を得ることができませんでした。一方《炭鉄港》や《夕張CM》関係の印刷物資料は、事業進展に付随して数多く作成しました。

■炭鉱遺産事業

○赤平立坑など主要炭鉱遺産の保全活用に対する積極的な関与：活用計画の策定に関わってきた赤平市の住友赤平立坑では、幾多の曲折を経て 2018 年7月に「赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設」が開業し、当 NPO ではカフェ物販コーナー運営とガイド補助を赤平市から受託しました。これにより、後述する《夕張CM》と合わせて、岩見沢・赤平・夕張の3拠点によって空知産炭地域全域を面的にカバーする体制が一応確立しました。

《赤平GC》の開設効果を発揮させるため、赤平立坑周辺で意識的に催事を集約して展開しました。「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」シリーズとしての「赤平アートプロジェクト」を、9月8日～10 月8日の会期で延べ 13 日間開催し、820 名の観覧者がありました。また、11 月4日には「食のTANtanまつり」を開催し、管内各地の飲食店出店、管内首長らによるリレートーク「ドイツ−九−炭鉄港」、立坑周辺の炭鉱遺産めぐりなどに、延べ約 2,000 名が参加しました。

三笠市の住友奔別立坑は、ここ数年の取り組みにもかかわらず保存活用に向けた気運醸成が進展しないことから、5月大型連休と夏休み期間中に延べ 15 日間の敷地公開を引き続き行い、延べ 1,248 名の来訪がありました。

当 NPO の面的展開体制を象徴する行事として、従来は三笠市で開催していた「線路の灯り」をスケールアップし「炭鉱の灯り」として、唐松駅（三笠／7月 29 日）、石炭大露頭（夕張／8月5日）、住友赤平立坑（赤平／8月12日）の3個所でリレー開催しました。炭鉱遺産のある空間を歩いて巡り学ぶ「ぷらぷらまち歩き」は、10 月に8本を集中的に開催し、昨年に比べ開催本数は半減したにもかかわらず 242 名の参加がありました（昨年は 15 本・285 名）。

○小樽・室蘭との連携による「炭鉄港」の日本遺産に向けた運動の強化：2010 年から展開してきた「炭鉄港」は、日本遺産への登録に向けた活動の流れが一段と活発化しました。7月に自治体・商工会議所商工会・観光協会・各地団体など約 80 団体が加盟する炭鉄港推進協議会が発足し、各地での広報映像の放映、JR車内誌などメディアへの露出度向上、フォーラム開催など、取り組みの幅が広がりました。2019 年1月の日本遺産申請に向けての申請書作成や要請行動において、ストーリー構築など根本的な部分で当 NPO は重要な役割を果たしました。

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流強化：2018 年も㈱島津興業からの受託調査が継続されたことよって、空知総合振興局主催の炭鉄港関連催事など鹿児島と北海道との歴史的経緯を踏まえた活動を展開することができました。

△基礎的な資料の整備・公開体制の構築：統計・図面・基本図書など空知産炭地域での石炭産業の展開過程を詳しく説明する基礎的な資料について、その整理と公開を進めようとしましたが、他業務が繁多であったことから準備作業にとどまりました。2019 年の具体化に向けて、準備を進めているところです。

■市民団体連携事業

○管内の機関・団体との連携：《炭鉄港》など活動の様々な局面を通じて、地域内外の機関・団体と良好な関係を築く取り組みは、マネジメントセンターの一連の活動の中で展開しました。

また、前述した「食のTANtanまつり」は、各地の市民団体との連携を強める意味で効果的な催事となりました。

○国内外の関係者・団体へのアピールと受入対応：マネジメントセンターには各地各所から多様な求めが寄せられ、積極的に対応しました。

■拠点施設事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの継続安定的な運営：限られた経営資源のなかで《岩見沢MC》の開館を継続し、地域のワンストップ拠点としての機能を発揮することができました。2018 年1～12 月の入館者数は 4,763 名（2016 年 5,134 名、2017 年 4,436 名）で、ほぼ安定的に推移しています。

■ヘリテージツーリズム事業

○研修旅行など受け入れ対応：他社ツアーのガイド受託や各種視察の手配業務は、例年並みに推移しました。2018 年の特徴的な活動としては、9月に東京で開催された「ツーリズム EXPO ジャパン 2018」への出展が挙げられます。国内外から 1,300 団体・企業が出展し 20 万人の来場者がある日本最大の旅行・観光展示会で、島津興業・夕張市との連携出展により一等地の角地ブースを確保できたことから、《炭鉄港》や炭鉱遺産を広くアピールすることができました。

■石炭博物館事業

△指定管理受託と円滑な運営体制の早期確立：夕張市石炭博物館の指定管理協定（2019 年4月から5年間）を夕張市教委と締結し、当 NPO による博物館の指定管理がスタートしました。入館者数はリニューアル効果によって当初想定 14,000 名を大きく上回る 31,786 名であったこと、来館者・従業員に事故なく1シーズンめの営業を終えることができたことは、まさに天佑によると言えます。初動期の備品など設備充足にあたっては、会員の皆さまから約 100 万円にものぼる寄付金を頂いたことで大きな助力となりましたことを、改めてお礼申し上げます。

博物館改修作業（特に展示部門）の遅れが、4月からの指定管理業務の体制構築へ影響し、十分な準備を行えないまま4月 28 日の開館に突入せざるを得なかったのは痛恨の極みでした。この余波は、その後も活動の質的充実を図ることの妨げとなりました。次シーズンの営業に向けて、運営体制の整備と質的充実に向けた取り組み強化は急務であると言えます。

■会務

△会員サービスの充実：2月には会員交流会を開催しましたが、なお一層のサービス向上を目指す必要があります。

×新たな事務局運営体制の整備：《岩見沢MC》《赤平GC》《夕張CM》の3拠点体制下で、法人の安定・発展に向けて、専従役員体制など新たな体制構築が不可欠な状況にありますが、《夕張CM》の安定運営に時間を要していることから、次年への課題となりました。

○会員数：［2018 年 12 月末］総数 =337 名（昨年末 322 名）、運営会員 =52 名（同 48 名）、一般会員 =263 名（同 253 名）、賛助会員 =22 社団体（同 21 社）、［動静］入会 =35 名（同 33 名）、退会 =20 名（同 33 名）、種別変更 =3 名（同 0 名）

■ 2018/12/31の財務状況

科目		2018 決算	
資産の部			
流動資産	現預金	9,482	北洋銀行普通預金など
	売掛金	104	夕張ネクスト
	棚卸資産	138	販売用書籍
	前払費用	150	前払家賃 3ヶ月
	立替金	43	2017・2018 除雪負担金
	小計	9,917	
固定資産	什器備品	1,211	除雪機・大判プリンター
	減価償却累計額	▲ 555	
	敷金	50	事務所敷金
	小計	706	
	資産合計	10,623	
負債の部			
未払金		1,725	電力料、法定福利費
前受金		1,350	島津興業
預り金		952	源泉所得税 社会保険料
	負債合計	4,027	
正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,913	
当期正味財産増加額		3,683	
	正味財産合計	6,596	
負債および正味財産		10,623	

単位：千円

■活動計算の 2018年決算・2019年予算

科目		2018 決算	2019 予算
経常収益			
	受取会費	1,953	2,300
	寄付金	1,206	2,300
	事業収益	47,968	38,000
	補助金	1,600	2,300
	その他	0	1
	経常収益計	52,727	44,901
経常費用			
事業費	人件費	13,330	14,000
	出版事業	225	800
	ツーリズム事業	2,859	1,000
	遺産保活事業	1,858	600
	学術支援事業	6,920	4,500
	市民連携事業	479	700
	拠点施設事業	1,978	2,000
	石炭博物館事業	17,887	20,000
	その他事業	2,536	0
	小計	48,072	43,600
管理費	人件費	775	0
	その他経費	99	1,300
	小計	874	1,300
	経常費用計	48,946	44,901
当期正味財産増加額		3,781	0
法人税・住民税・事業税		▲ 97	▲ 1,300
前期繰越正味財産額		2,913	6,596
当期正味財産		6,596	5,296

単位：千円

■ 計画 ■ 2019年

■出版事業

○ブックレットの発刊（石炭博物館ガイドブック／炭鉱鉄道／炭鉄港／日立）

○解説資料の刊行

■炭鉱遺産事業

○《炭鉄港》日本遺産との連動による炭鉱遺産のクローズアップ

○《炭鉄港》日本遺産との連動による小樽・室蘭との広域連携の強化

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続

○《夕張CM》をはじめとした学術機能支援の充実

■市民団体連携事業

○シーニックバイウェイ展開などを通じた他管内の機関・団体との連携

○国内外の関係者・団体への対応

■拠点施設事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの安定的運営

○《岩見沢MC》開設 10 周年記念事業の開催

■ヘリテージツーリズム事業

○《赤平GC》《夕張CM》を起点とした広域周遊の促進

■石炭博物館事業

○運営体制確立によるサービス業としての基礎要件の充足

○指定管理業務の着実な実施と博物館の質的充実に向けた展開

■会務

○会員サービスの充実

○新たな運営体制の検討